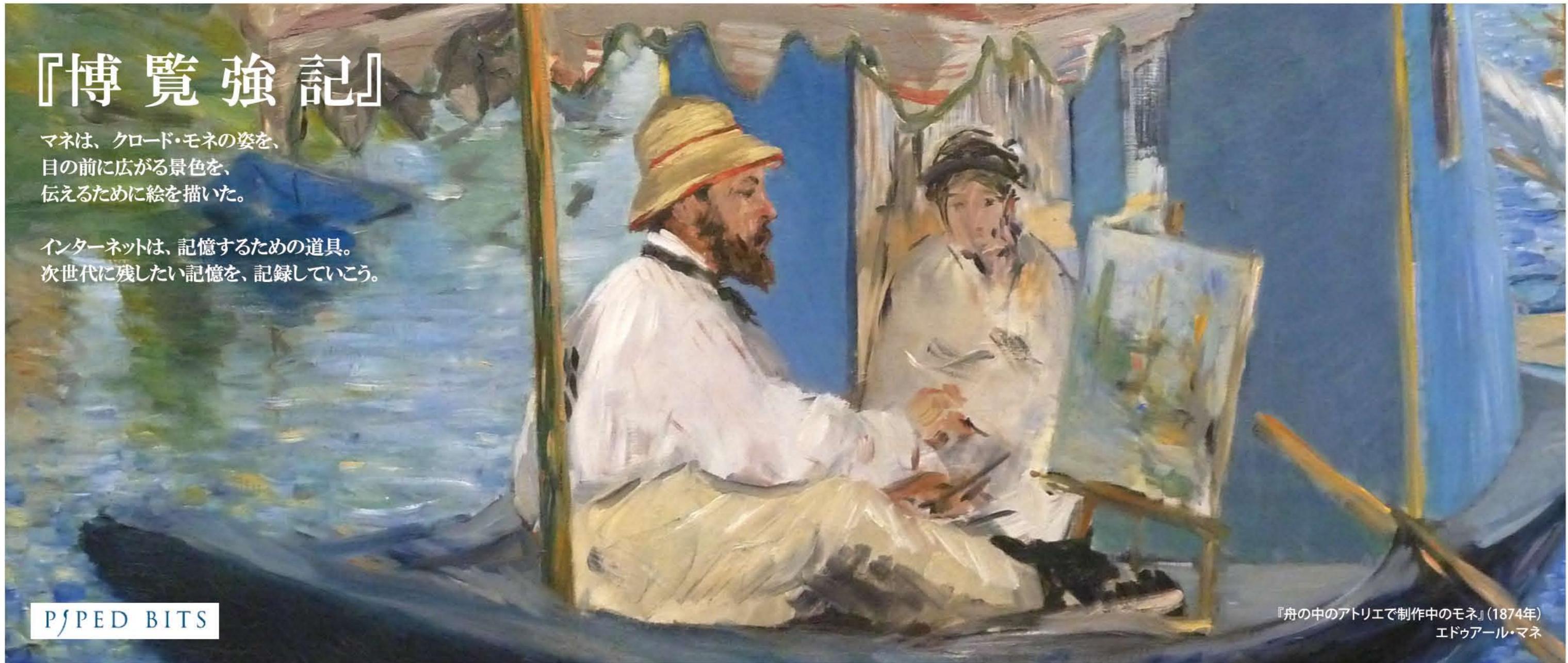


# 『博覧強記』

マネは、クロード・モネの姿を、  
目の前に広がる景色を、  
伝えるために絵を描いた。

インターネットは、記憶するための道具。  
次世代に残したい記憶を、記録していく。



PJ PED BITS



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学研究科博士課程修了、博士（人間環境学）。翌月起業。株バイブドビッツ社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者に情報資産プラットフォーム「スマイル(R)」を提供中。

株式会社バイブドビッツ  
東京都港区赤坂2丁目9番11号  
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

何度も訪れたことがあり、好んで美味しい黒豚を食してきたが、魚が美味しいという認識は無かった。今回その認識を改めさせられた。鹿児島は魚が美味しい。天文館から車で5分程度の距離にある市場には食堂もあり、お昼前から一般客も入れるそうなので、興味がある方は是非ご賞味頂きたい。

別日の日に知覧を訪れた。目的は知覧特攻平和会館だ。今は世界遺産への登録を目指しているようだ。学生時代に拝観したことがあるが、この度もあらためて身が引き締まる思いがした。館内には、1036柱の隊員の遺影が出撃戦死した順に掲示され、その下には家族への遺書、手紙、辞世の句などが展示されている。多くの遺影に付箋が張りつけられていた。「身元不明」。ここでは今もなお身元探しが行われている。

これほどインターネットが普及して、我々はネットで何でも見つけられると錯覚しがちだ。今回の鹿児島は情報化の原点を見つめなおす旅になつた。

昨年10月に会社の役員と共に2泊3日の合宿に出かけた。目的は新たな中期経営計画を策定すること。今回は鹿児島に向かった。鹿児島を選んだ理由は3つあった。1つは知覧、1つは魚市場、1つは友との交流。

鹿児島には天文館でホテルを経営している友人がいる。学生時代に建築を学び、米国に2年留学して日本最大手の設計事務所に就職しながら、現在は転職して奥様の家業のホテルの支配人を務めている。そんな変わり者の友人が、地元のホテル経営者と連携して地元漁協に掛け合いで、魚市場の見学ツアーを実現したと聞いていたので、是非一度見てみたかった。

魚市場では、県漁連の方が市場の競りの様子などを案内してくれた。我々がIT企業の役員ということで、市場のITシステムについてもレクチャーして頂いた。過去に農水省や全漁連が、競りから卸売、小売までの流れをITで一気通貫して可視化する取り組みにチャレンジしたそうだが、上手く立ち上がりがないらしい。理由を聞いてなるほどと思った。魚のコード化が難しいのだ。同じ魚でも地域によって呼び名が違う。出世魚のブリにしても、どの大きさでハマチと呼ぶのかが地域によって違う。そもそも1匹毎に目方が違う。毎日競りにかけられる数多くの魚をコード化するのは容易ではないという訳だ。現場の仕事は外野が思う程のんびりはしていない。余談だが、これまで鹿児島には

## 『情報化の原点』